

長良川では
流域八十六万人のくらしの中で
清流が保たれ、鮎が育ち、
地域の歴史、文化、経済と
深くつながっています。



日本有数の鮎
伝統漁法による食料の確保



鮎と水の文化
流域に伝わる文化と価値観



森が蓄える長良川の清流
都市部を流れる川でありながら
日本三大清流と呼ばれる



森・川・海のつながりで育つ鮎
生物多様性と鮎資源の確保

長良川システム

人の生活、水環境、漁業資源が
連環する里川のシステム



森を育てる活動
森林の育成と水資源管理



川を守る活動
優れた景観と生態系の保全

世界農業遺産認定による効果

農林水産業



「里川」における持続的な農林水産業の振興

- ・「岐阜県魚苗センター」の拡充
- ・人工ふ化放流事業、繁殖環境整備
- ・7月第4日曜日を「GIAHS鮎の日」に制定
- ・「清流長良川の鮎」ロゴマークの制定
- ・「清流長良川の恵みの逸品」の制定
- ・海外トップセールスでのプロモーション

- 産卵場造成面積：800m²(H25)→**1,600m²**(R2)
- 「清流長良川の恵みの逸品」認定商品数：**52商品**(R2)
- 県産鮎輸出货量：15kg(H25)→**761kg**(R2)



GIAHS鮎の日



2016年7月24日 ロゴマーク表彰式
応募296点(県内212点、県外84点)

伝統漁法、伝統文化



鮎を対象とした伝統漁法と、 鮎と水にまつわる伝統文化の継承

- ・ 伝統漁法、文化を守る後継者の育成
- ・ 「清流長良川あゆパーク」の運営

- 体験学習を通じた水産業の振興と世界農業遺産「清流長良川の鮎」の情報発信拠点、清流長良川あゆパークオープン：H30.6.2
- 清流長良川あゆパーク来場者：**50万人**(R3.5月末)



清流長良川あゆパーク



伝統漁法を親子で学ぶ講座

環境の維持、保全



「里川」における水環境、生物多様性の維持、保全

- ・水源の森づくり、魚のための森づくり
- ・良質な水質の保全
- ・生物多様性の維持、保全

- 漁協の「長良川源流の森育成事業」：**125名参加**(R1)
- ※ R2はコロナウイルスの影響で未実施
- 魚つき保安林面積：4.5ha(H25)→**13.3ha**(R2)
- 岐阜県自然工法管理士新規認定者数：
:134人(H25)→**114人**(R2)



魚つき保安林



長良川源流の森育成事業

景観の保全、継承



「里川」における景観と 伝統的防災システムの保全・継承

- ・農村景観の保全、継承
- ・歴史ある町並みを保全、継承
- ・伝統的防災システムの保全、継承

- 耕作放棄地解消面積：**11.4ha/年**(R2)
- 岐阜県、愛知県、三重県、静岡県内の16都市が連携して「歴まちカード」を発行、魅力を啓発(恵那市、岐阜市、郡上市、高山市、美濃市)
- 伝統的防災施設に関する出前講座などを実施



うだつの上がる町並み
(美濃市)



長良川の霞堤

情報発信



国内外に向けた長良川システムの発信

- ・世界農業遺産体感モデルツアー
- ・国内認定地域との連携PR
- ・民間団体によるPR活動
- ・「東南アジア漁業開発センター」との協力
- ・「内水面漁業研修センター」開設
- ・研修生受け入れ、研究員派遣による技術指導
- ・国際貢献活動の国内外でのPR

- 体感モデルツアー：**50コース 延べ1,205名参加**(H28～R2)
- 流域の担い手育成事業：
:認定者数 **51名**(R1～R2)
- 認定5周年記念シンポジウム開催：**150名**
- アジア、アフリカ地域等からの研修生や政府関係者の視察研修受け入れ：**33カ国144名**(のべ人数)(H28～R2)



認定5周年シンポジウム 内水面漁業研修センターでの研修

